

確認テスト

所属_____

氏名_____

こんなときどうする！？ 認知症の人のBPSDへの対応

1) 認知症の人のBPSDへの考え方と対応について、次の項目のうち、正しいものには○、間違ってるものには×をつけなさい。

- ① () BPSDは、薬物療法によってのみ改善可能である。
- ② () 原因疾患ごとに対応マニュアルを作成し、統一した対応に心掛ける。
- ③ () BPSDは本人が発している何らかのサインだと考えることが大切である。
- ④ () BPSDは単独で出現することが多く、同時に複数のBPSDが出現することはない。

2) 認知症の人のBPSDについて、次の項目のうち、正しいものには○、間違ってるものには×をつけなさい。

- ① () 徘徊は、転倒のリスクが高く、離設につながることも多いため、直ちにやめさせる必要がある。
- ② () 暴力行為が始まった時には、一旦距離を置いて危険がないか見守るのも手である。
- ③ () もの盗られ妄想は、身近な人物よりも遠い親戚やかかわりが薄い介護職員などが疑われる対象となることが多い。
- ④ () 食欲をつかさどる満腹中枢が障害された結果、自分の限界を超えて食物を食べ続けることを異食という。
- ⑤ () アパシーとは、気分の高揚により気持ちが高ぶり、過活動状態になることをいう。

解答

1)

- ①× 薬物療法だけでなく、介護者のかかわり方や環境調整などにより改善することが可能である。
- ②× 対応を統一するのは不適切。個々の状態に合わせた個別ケアに心掛ける。
- ③○
- ④× 複数の BPSD が同時に出現することも多いので、対応が難しい。

2)

- ①× 危険がない限りは見守るだけでもよい。無理に止めさせるのは逆効果になる。
- ②○
- ③× 配偶者やいつも担当している介護職員など、かかわりが強い人物が疑われる対象となることが多い。
- ④× 食べ物でない物を食べてしまうことを異食という。
- ⑤× アパシーとは無気力状態のことをいう。